

新琵琶湖博物館の創造～展示のリニューアル

【予算額 784,589千円】

資一琵琶 1

琵琶湖博物館
077-568-4811

新展示の特徴

◆体感！ 驚きと感動、学びと発見が生まれる展示

体感型・参加型展示や実物資料、交流の場の増加などにより、子どもから大人までが楽しめる、驚きと感動、学びと発見の機会に満ちた発信力の高い展示となります。

平成28年7月14日
第1期リニューアルオープン

第1期 ～ C展示室：琵琶湖周辺の環境と人びとの暮らし ～

琵琶湖岸から森林までの身近な景観を入りに、環境・人間・生き物の関係性をわかりやすくし、身の回りの世界の中に潜むおもしろさを知ってもらい、博物館の屋外展示や交流事業とつなぎ、魅力あるフィールドへ誘います。



<琵琶湖へ出かけよう>

県民から募集した琵琶湖の写真展示など、滋賀県・琵琶湖の魅力を一挙に紹介。琵琶湖への理解を深め、観光への入り口。



<川から森へ>

森と生き物、人とのかわりや流域の治水・利水の取り組みを紹介。



<生き物コレクション>

当館収集資料を圧倒的な質・量・美しさで展示し、固有種および琵琶湖地域の生物多様性を示す。

～ 水族展示：淡水の生き物と人びとの暮らし ～

琵琶湖に生息する様々な生き物を展示し、それぞれの特色や生息環境を通じて、琵琶湖のもつ生物多様性や食文化などの「生き物と人とのかわり」を伝え、驚きや発見を促します。



<沖合の水中・トンネル水槽>

空間イメージを刷新し、照明や擬岩などでよりリアルに湖中を再現。



<カトリヤナ水槽>

魚の生き生きとした生態を展示。あわせて食文化などの「生き物と人とのかわり」を伝える。



<マイクロアクアリウム>

肉眼では見えないプランクトン等微小な生き物を拡大し、迫力あるライブ映像で紹介。

第2期 ～ 交流空間の展示・建築設計等 ～

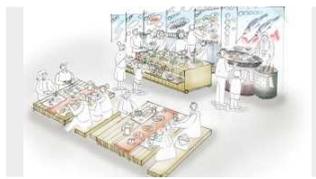
大人の興味や探究心に応えられる知的空間の「大人のディスカバリー」、琵琶湖が一望でき屋外の森を観察できる空中遊歩道の「樹冠トレイル」、地元産食材等を味わえる「レストラン」などの展示・建築設計業務等を行います。



<大人のディスカバリー>



<樹冠トレイル>



<レストラン>

平成28年度スケジュール

	平成28年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
第1期	展示制作および設置 (～8月末)	7月オープン		
	建設工事(～6月末)			
第2期		実施設計【展示・建築】(4月～3月)		
	樹冠トレイル測量・予備設計 (4月～7月)		樹冠トレイル地質調査・詳細設計 (8月～3月)	

■展示リニューアル

第1期: C展示、水族展示
 第2期: 交流空間
 第3期: A展示、B展示
 事業期間: H27年度～32年度
 事業規模: 30億円程度

+

■新琵琶湖博物館創造推進事業

～びわ湖ブランド・琵琶湖博物館ブランドの強化・発信～
 ・20年間の博物館活動の総括と今後の展望を発信
 ・積極的な広報・メディア戦略の展開
 ・企業連携による発信力の強化・資金確保
 ・琵琶湖博物館ファンの拡大

入館者42万人の達成(H28年度)
 入館者60万人の達成(H32年度)

「湖と人間」の新しい共存関係
 が築かれた社会の実現



【事業の構成】

～びわ湖ブランド・
 琵琶湖博物館ブランド
 の強化・発信～

◇20年間の総括と
 今後の展望

◇広報・営業力の強化

◇多様な主体との連携

① 「(仮称)開館20周年ありがとう記念事業」の開催

20年間の総括とこれからの新琵琶湖博物館の魅力を発信する機会とする。
 ・開館20周年関連(9月・10月・3月)
 企画展示オープニングセレモニー、記念式典、国際シンポジウム、記念誌
 ・リニューアル関連(6月・7月)
 リニューアル内覧会
 第1期リニューアルオープニングセレモニー
 ・20周年ありがとう交流会(11月・12月)
 県民参加型交流(交流体験・食文化交流)、企業団体のCSR活動の紹介等
 湖を奏でるコンサート

【5,000千円】



③ 広報・メディア戦略の展開

ターゲットに応じた最適な広報を戦略的に実施し、県外での知名度向上と、ブランド力強化に重点的に取り組む。
 ・パブリシティ活動の展開
 ・ウェブを活用した広報
 ・生まれ変わる琵琶湖博物館の姿(展示間近の様子)を情報提供
 ・電波媒体でのCM、マスメディアの活用

【18,000千円】



② 移動博物館「サテライトミュージアム」

移動型展示キットの貸出により「サテライトミュージアム」を展開し、琵琶湖博物館の魅力とリニューアルの発信を行う。

- ・開催時期: 随時貸出し
- ・展示キットの維持管理

【300千円】



④ 企業・団体連携の推進

企業等のもつ技術力・企画力・資金力等を活用するとともに、外部資金の確保を図る。

- ・リニューアルサポーター、企業メンバーシップなどの連携推進
 資金的支援の要請
- ・ビジネスコラボレーション(オリジナルグッズの共同開発等)

- ⑤ キャンパスメンバーズ制度の創設(大学生の利用促進)
- ・烏丸半島各施設、関係団体等との連携・協力事業の展開

【3,500千円】

⑤ 「倶楽部LBM」の運営

博物館を日常的に利用し、交流活動等に積極的に参加するコア利用者層(ファン層)を育て、来館者増につなげる。

- ・会費: 年間観覧料(観覧料金2回分 1,500円)
- ・会員数: H28年度目標3千人
- ・特典: 会員限定イベント、館内施設優待(レストラン/ショップ1割引)など

【500千円】



新 琵琶湖保全再生計画策定・広報啓発事業

資－琵琶環2

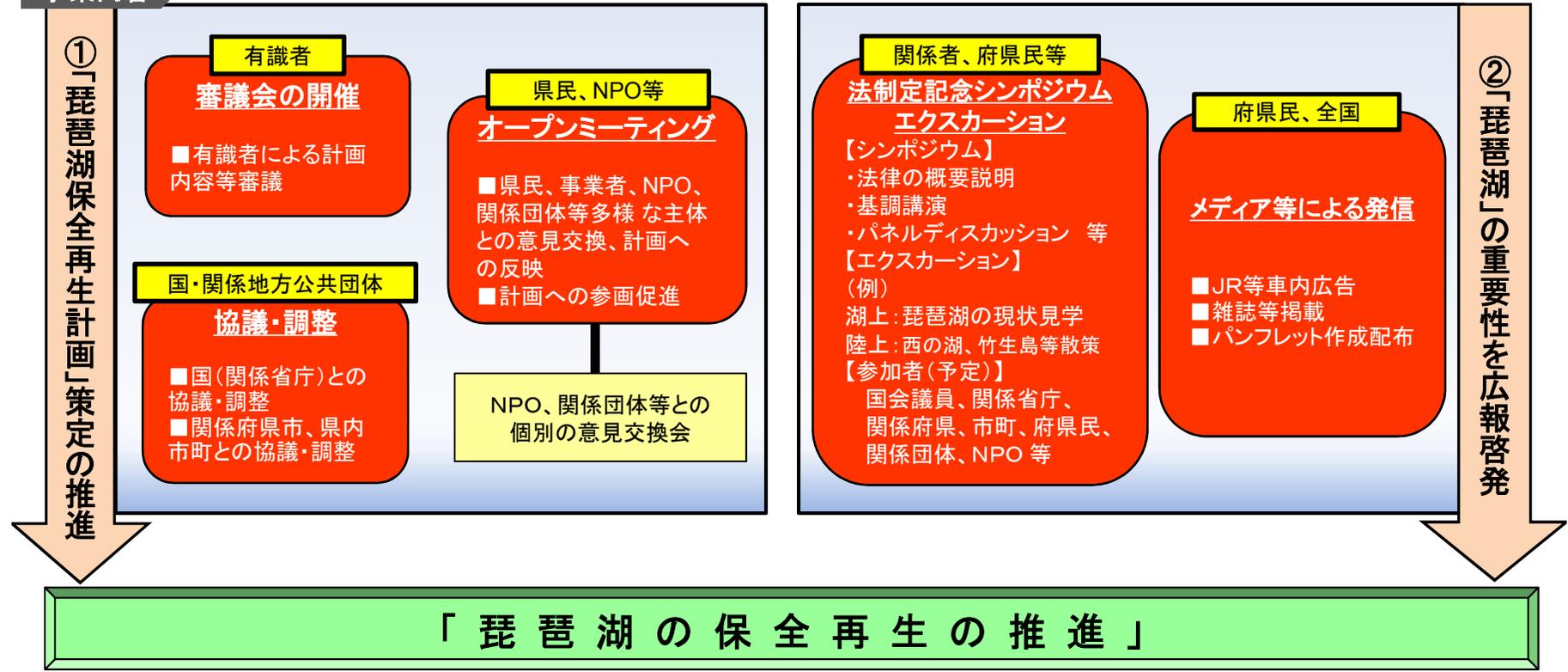
琵琶湖政策課
内線3468

【予算額 14,000千円】

目的

平成27年9月28日に公布・施行された「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」の制定を受けて、県は、国が策定する基本方針を勘案して「琵琶湖保全再生計画」の策定を進めるとともに、琵琶湖の価値や重要性について、県民はもとより国民の理解・関心を深めるため広くPRすることにより、「国民的資産」である琵琶湖を健全で恵み豊かな湖として保全・再生を図ることを目的とする。

事業内容



琵琶湖の水草クリーンアップ事業 【予算額 427,122千円】

資一琵琶3

琵琶湖政策課 (3463)
 自然環境保全課 (3483)
 下水道課 (4221)
 水産課 (3874)
 流域政策局 (4154)

背景

水草の大量繁茂は、特に南湖において生活環境や漁業さらには生態系にも多大な影響を与えており、適正な状態に管理することが喫緊の課題。

緊急的な対応として関係機関連携による集中的な水草除去を行い改善を図るとともに、対策技術を広く求め、水草対策の高度化を進める。さらに侵略的外来水生植物の徹底駆除を行う。これらを通じて、望ましい水草の状態を目指し、侵略的外来水生植物を管理可能な状況にまで減少させるとともに、南湖の生態系・漁業の再生につなげる。

主要な事業の概要

1 暮らしを守るための除去【169,600千円】

表層刈取りにより腐敗臭を放つ漂着水草から県民の生活環境を守るとともに、航路確保や景観改善を図る。

- 1-1 水草刈取事業
- 1-2 南湖緊急水草刈取事業 (琵琶湖政策課)
- 1-3 矢橋帰帆島中間水路維持管理業務 (下水道課)
- 1-4 補助河川総合流域防災事業 (流域政策局)

2 生態系保全のための除去【117,600千円】

根こそぎ除去を、年間を通じて南湖中央部で実施し、生態系と湖底環境の改善を図る。

- 2-1 水草除去事業
- 2-2 南湖横断部水草除去事業 (琵琶湖政策課)

3 漁場再生のための除去【22,580千円】

水草除去を強化して、漁場環境を改善し、在来魚介類資源の回復を図る。

- 3 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト (水産課)

4 侵略的外来水生植物の除去【111,692千円】

オオハナスキンバイ等の外来水生植物の徹底的な駆除を行い、管理可能な状況にまで減少させる。

- 4-1 侵略的外来水生植物の戦略的防除推進事業 (自然環境保全課)
- 4-2 外来生物防除対策事業 (自然環境保全課)
- 4-3 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト (水産課)

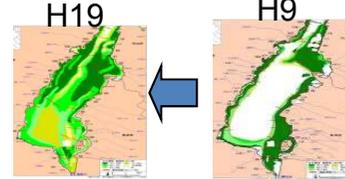
5 知恵を集める【5,650千円】うち重点5,650千円

水草対策の技術提案を広く募集するとともに、企業や大学との共同研究により、水草の刈取り除去や有効利用の高度化を図る。

- 重5 水草対策技術開発支援事業 (琵琶湖政策課)

水草の大量繁茂

- ・悪臭、航行障害
- ・底層酸素濃度低下、生態系への影響



望ましい水草の状態
1930~50年代

1 暮らしを守る



【湖岸】4 外来水生植物除去



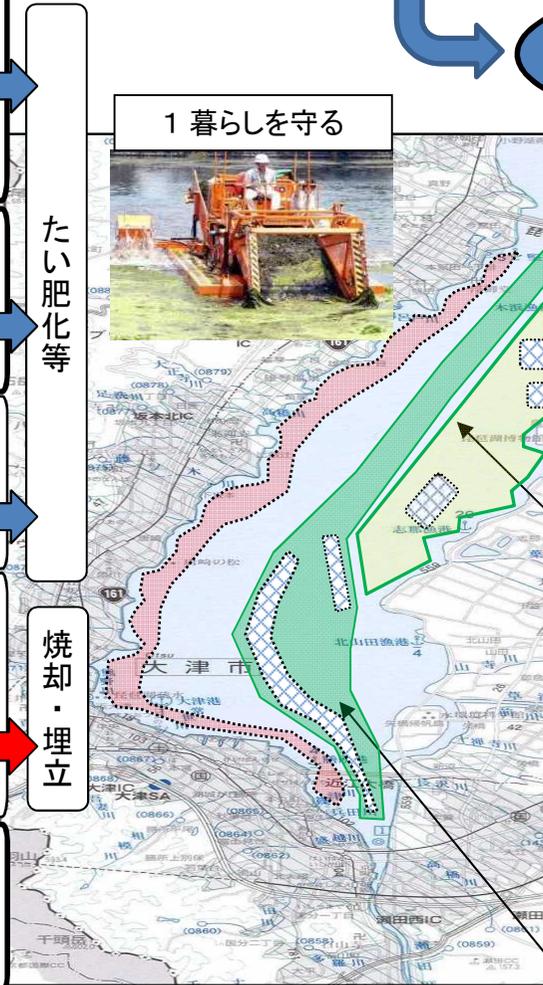
3 漁場再生



2 生態系保全

たい肥化等

焼却・埋立



しがの林業成長産業化に向けた取組

【予算額 62, 633千円】

資一琵琶4	
森林政策課	内線3915 3922
森林保全課	内線3930

- <課題>
- I. 不安定な素材生産による川下への原木供給量不足(需要と供給のミスマッチ)
 - II. 森林組合系統の経営基盤の強化が急務
森林組合間の連携強化



(課題 I)
■ 戦略的素材生産システム構築事業
 【36, 000千円】

◇平均搬出量を拡大
 50m3/ha → 80m3/ha以上

生産性の
向上

素材生産量
の増

木材の安定供給

(課題 II)
■ しがの林業成長産業化推進事業
 【26, 633千円】

人材育成

◇森林組合マネジメント強化事業 【3,900千円】

- ・経営改善計画策定
- ・経営スキルアップ

情報マネジメント

◇林業・木材産業流通人材支援事業 【2,000千円】

- ・木材市場との連携
- ・需給調整・販路拡大・価格交渉

システム化

◇県産材生産ネットワーク構築支援事業 【5,000千円】

- ・在庫管理システム運用
- ・生産情報・労働力・林業機械の一元管理等

流通量拡大

◇県産材流通拡大強化事業 【15,133千円】

- ・県産材の販売促進支援

県産材生産流通ネットワーク協議会
 (構成: 滋賀県森林組合連合会、森林組合)

新たな木材需要の創出

- ・公共建築物の木造化
- ・CLTの利用推進
- ・木質バイオマスエネルギーの利活用





びわ湖材

◇林業成長産業化アクションプラン策定【600千円】

・しがの林業成長産業化に向けた木材の生産・流通・利用のアクションプランを策定

急増する野生動物被害に対する対策

【予算額 272,843千円】

資一琵琶5

自然環境保全課
内線 3489

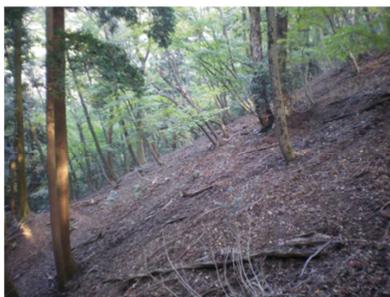
対策の概要

第二種特定鳥獣管理計画に基づく個体数管理を中心とした対策を実施

鳥獣種別の対策方針および事業概要

背景

野生動物の生息数の増加や分布域の拡大等により、農林水産業の被害だけでなく森林生態系への影響が顕著となり、土砂流出防止機能や生物多様性の保全等森林の公益的機能の低下が懸念されている。



ニホンジカの食害により下層植生が消滅した森林

ニホンジカ

県内適正頭数 8,000 頭を目指し、H28 年度は 16,000 頭の捕獲

・湖国の森林と自然を守るニホンジカ特別対策事業 【107,500 千円】

捕獲目標を早期に達成するため、捕獲頭数に応じた助成
(助成額：許可捕獲 10,000 円/頭、狩猟 5,000 円/頭)

・ニホンジカ広域管理捕獲実施事業 【8,500 千円】

霊仙山及び伊吹山の限定した地域において県猟友会及び認定捕獲等事業体等に委託し捕獲を実施

・指定管理鳥獣捕獲等事業 【20,000 千円】

鳥獣保護法の一部改正に伴い創設された国の事業を活用し、生息密度が高く高標高域である比良山系、鈴鹿山系で捕獲を実施

・地域ぐるみ捕獲推進事業 【3,500 千円】

狩猟免許を持つ者と持たない者がそれぞれの役割に応じ協働して捕獲を実施する市町への助成



ニホンザル

被害地での防除を前提としつつ、特定の悪質な群れの個体数調整

・ニホンザル個体数調整推進事業 【7,500 千円】

市町等が実施する個体数調整への助成



イノシシ

被害を与える特定個体の捕獲

ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ 計画に基づく有害捕獲への助成

・鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業 【109,600 千円】

市町が計画に基づき実施する有害捕獲への助成 (助成額：成獣 8,000 円/頭、幼獣 1,000 円/頭)



カワウ

コロニー毎の特徴を考慮しながら、管理しやすい程度まで生息数の速やかな削減

・琵琶湖北部カワウ等対策事業 【4,150 千円】

琵琶湖北部地域でのカワウ等による被害対策として実施する個体数調整・営巣妨害等に助成

・新規コロニー等拡大防止カワウ対策事業 【1,000 千円】

新規及び急速に生息数が増加しているコロニー等にカワウが定着することを防止するための捕獲等への助成



モニタリング調査

森林動物行動圏等調査

【9,500 千円】

野生動物の行動圏・生息分布を調査し、捕獲の効果等を検証するとともにニホンジカ、イノシシの第二種特定鳥獣管理計画を策定する。